**台湾工作機械情報**

**2022年7月15日**

* **2021年度トップ2000における工作機械企業**

5月天下雜誌で発表された台湾上位2000社のランキングのなかで、工作機械・パーツメーカーのランキングと関連する情報を表1に示す。

表一 2021年度台灣2000大的工作機械企業ランキング

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 排名 | 企業名 | 売上高(億元) | 成長率(%) | 利益(億元) | 利益率(%) |
| 1 | 上銀科技 | 272.65 | 28.20 | 35.32 | 12.95 |
| 2 | 亞德客國際集團 | 254.00 | 32.96 | 64.42 | 25.36 |
| 3 | 東台精機 | 96.26 | 23.74 | 1.73 | 1.80 |
| 4 | 台中精機廠 | 80.20 | 15.90 | N.A. | - |
| 5 | 程泰機械 | 67.25 | 29.20 | 3.64 | 5.41 |
| 6 | 金豐機器工業 | 54.82 | 27.19 | 1.40 | 2.55 |
| 7 | 永進機械工業 | 54.26 | 53.75 | N.A. | - |
| 8 | 協易機械工業 | 37.96 | 43.68 | 0.57 | 1.50 |
| 9 | 亞崴機電 | 36.31 | 17.36 | 1.31 | 3.61 |
| 10 | 全球傳動科技 | 32.85 | 19.89 | 2.37 | 7.21 |
| 11 | 大銀微系統 | 31.84 | 29.85 | 2.97 | 9.33 |
| 12 | 崴立機電 | 30.30 | 16.09 | N.A. | - |
| 13 | 台灣瀧澤科技 | 29.43 | 38.56 | 1.82 | 6.18 |
| 14 | 協鴻工業 | 27.21 | 32.80 | -0.78 | -2.87 |
| 15 | 台灣麗馳科技 | 25.15 | 38.87 | -0.12 | -0.48 |
| 16 | 油機工業 | 22.92 | -7.66 | 1.66 | 7.24 |
| 17 | 台灣氣立 | 20.33 | 28.51 | 2.34 | 11.51 |
| 18 | 百德機械 | 20.23 | -3.39 | -1.85 | -9.14 |
| 19 | 高鋒工業 | 19.58 | 21.69 | -0.36 | -1.84 |
| 20 | 直得科技 | 18.57 | 34.37 | 3.09 | 16.64 |
| 21 | 福裕事業 | 16.07 | 43.87 | 0.34 | 2.21 |
| 22 | 達佛羅 | 12.74 | 2.41 | N.A. | - |
| 23 | 榮田精機 | 12.68 | 32.22 | 0.64 | 5.05 |

註：天下雜誌748期より。第5位の程泰機械は亞崴機電(第9位)も含む，

単独では第11位。

このランキングとその内容から2021年の台湾の工作機械企業は、一部で前年の栄光を取り戻し始めているが一部はまだ苦戦を強いられていることがわかる。 全体として以下５つの特徴が挙げられる。

1. FFGの友佳国際控股は昨年7位としてリストに入ったが、今年はリストに収録されていない。台湾と中国におけるFFGの最盛期と思われる2010年度のリストを調べると、友嘉実業、友佳国際控股と台湾麗偉がそれぞれ1位，6位と23位として名連れていた。今後、FFGのプレセンスは一層不透明になるかもしれない。
2. 前年の好調さを取り戻しつつあるのは、東台精機、台中精機、程泰、永進機械、台湾滝澤などの大手切削工具機械メーカーと金豐機械、協易機械という大手成形工作機械メーカー2社で、この2社は売上高が前年同期を上回った。 なかでも台中精密機械（未公表）、程泰、台湾滝澤の収益回復力が業界の注目を集めている。
3. これまで価格で勝負して急成長してきた台湾麗馳や協鴻工業などの輸出型企業は、徐々に売上高を回復させているがまだ黒字にはなっていない。
4. 部品メーカー6社は引き続き好調で、上位2社の上銀と亞德客は関連分野のプラットフォーム企業に転換し、工作機械メーカーの関連顧客は3割弱となった。 同様の動きは大銀微、全球傳動、台灣氣立、直得科技にも見られる。
5. 百德機械の大幅な損失は、米国での買収にともなう損失の償却によるもので、回復には時間がかかると思われる。

業界のエコシステムという観点から見ると、これまでコストパフォーマンス（CP）で優位だった工作機械メーカーが、顧客ニーズと補完的な資源を組み合わせた共生・発展へと変貌しつつある。上銀科技が直線移動プラットフォームカンパニーに変身したように、工作機械メーカーもお客様の使用プロセスに着目することで、カスタム型プラットフォームカンパニーに変身することができるだろうか。同時に、台湾台灣麗馳、協鴻工業、達佛羅などの輸出企業が今後も元気を取り戻せるかどうかに注目したい。

（資料出典：天下雜誌748期、劉仁傑研究室）

* **工作機械工業会が金属工業センターと手を組み**

**洋上風力発電の海洋風力・舶用機器におけるスマート機器の交流を促進**

2021年の国連気候サミットで合意されたグラスゴー気候協定では、グリーン電力と二酸化炭素削減に重きが置かれた。各国企業がこのエネルギー変革の波の中で二酸化炭素削減による商機を期待している。この政策指針のもと、台湾はグリーン・低炭素環境を積極的に取り入れようとしている。エネルギー源を転換してさまざまな形態の新エネルギー発電を利用することで、グリーン経済、環境持続、さらに社会的公正の発展を両立させることができる。なかでも洋上風力発電產業は新エネルギー源の一環として台湾風力発電の発展にすでに20年を費やしてきた。2016年から政策の転換として洋上風力発電を推進して以来、海外のデベロッパーやシステムベンダーからの資本・技術投資を呼び込んだだけでなく、国産化政策により洋上風力発電產業の上流・中流・下流への国内投資を促進し、台湾の洋上風力発電產業のサプライチェーンを整えてきた。

台湾工作機械とパーツ工業同業公会理事長の許文憲氏は次のように語っている。「台湾の工作機械産業は、完璧なサプライチェーン、スマート化されたライン設備、充実したサービスが完備されている洋上風力発電のパーツ加工設備の需要に十分応えることができるはずだ。そこで、工作機械業界と洋上風力発電が協力して国家チームを結成することができれば、「1+1=2+α」の業界力を生み出すことができ、台湾が国際的な洋上風力発電産業チェーンにおいて不可欠な存在となることだろう。」

当工業会によって「洋上風力発電海洋機械スマート機器イノベーション会議」が開かれ、理事の林建佑氏が国内工作機械産業と洋上風力発電産業におけるエネルギー、及びスマート機器イノベーションアプリケーションの現状や将来の発展動向についてシェアした。政府は今年、第3期となる洋上風力発電事業（発電容量3GW、6ヶ所）を発表する予定だ。また、これまで洋上風力発電の供給に携わっていた国内メーカーが設計開発にも携わり、鍵となる開発プロジェクトの要件に合わせて、風車部品や加工設備の国産化という目標を達成していく予定だ。

（資料出典：工作機械とパーツ雑誌，2022，NO.140 頁68）

* **高雄工業オートメーション展**

**南台湾最大かつ最も象徴的な産業展示会**

5月11日から14日、"高雄工業オートメーション展 "が高雄展覧館の北ホールと南ホールで開催、工作機械、産業機械、スマート機械、ハードウェアパーツ、自動コントロール測定、及び発明技術・新技術など6つの展示エリアが計画された。同時に高雄国際機器・化学品展も同じ会場で開催され、両展示会の掛け合わせで多様な専門調達のプラットフォームが形成され、専門バイヤーを誘致することができた。

メイン開催者である経済日報は次のように伝えている。「高雄化学工業オートメーション展は40年近い歴史を持ち、高雄展覧館で8年目を迎える。今年は、韓国、マレーシア、中国、シンガポール、米国、インドネシア、タイの7カ国から出展があった。川上の原料、川中の機械設備、川下の完成品までの産業チェーンすべてを展開、ワンストップでソーシングできる場を提供した。910のブースが設置され南台湾で最大かつ最も重要な産業展示会となった。そのなかでも工作機械エリアは、德士凸輪のローラー式4-5軸回転テーブル、伝動システム部品の大手である上銀科技、精密機械部品の開発・生産に特化した銀泰科技、各種研削盤に特化した主新德、微細穴放電加工機の製造・開発に力を入れた嘉昇機電などが目玉となった。Toyoをはじめとする多くの代表的な企業は長年にわたり主要なオートメーションモジュールに注力し、企業変革や工場の自動化に向けたソリューションを提供している。

（資料出典：工作機械とパーツ雑誌，2022，NO.141 頁63）

* **2022年台湾工作機械産業の現状と展望**

最近の国際経済情勢は、ロシア・ウクライナ戦にともなうエネルギー・食糧・商品価格の高騰やインフレ率の高止まり、主要国中央銀行の金融引き締め姿勢を背景に、世界経済の成長の勢いが年明け早々大きく鈍化した。加えて最近の中国主要都市におけるロックダウン、中国経済の下押し圧力が高まり、世界のサプライチェーンの混乱に拍車をかけている。

2022年1-4月台湾工作機械輸出総額は9.36億米ドル、前年比16.3％増となった。そのうち、金属切削工作機輸出は19.4％増、金額は7.85億米ドル、金属成型工作機輸出は2.3％増、金額は1.5億米ドルだった。

　2022年1 -4月金属加工機の主な輸出品目は、多い順にマシニングセンタで、輸出額は3.31億米ドル（前年同期比28.2％増）。旋盤は2位で輸出額は前年同期比20.6％増の約22.04億米ドル。鍛圧・プレス成型機の輸出は1.18億米ドルで、前年同期比横ばいだった。

2022年1 -4月までの台湾工作機械輸出の上位10カ国（地域）を輸出国（地域）別に見ると、中国（香港を含む）、米国、トルコ、イタリア、オランダ、ベトナム、インド、タイ、マレーシア、ロシアとなった。このうち中国本土（香港を含む）向け輸出は2.35億米ドルで、前年同期比16％減、輸出総額の25.1％シェア。第2位の輸出先は米国で、輸出額は約1.35億米ドル、前年同期比50.8％増、輸出総額の約14.4％シェア。第3位はトルコで、輸出額は前年同期比11.9％増の7,728万米ドル、輸出額全体に占める割合は8.3％であった。

　2022年1月-4月までの台湾工作機械輸入総額は3.44億米ドルで、前年同期比0.9％の微減となった。金属切削工作機械の輸入は1％減の3.07億米ドル、金属成型工作機械の輸入は3,747万米ドルで横ばいとなった。

2015年、中国は「Made in China 2025」という政策目標を打ち出し、製造業の高度化を推進するための重要な戦略としてスマートマニュファクチャリングの推進を挙げた。また2016年末に政策文書「第13期スマート製造業発展5カ年計画」を発表した。「第14期5カ年計画」に入った中国は、2021年12月に「第14期スマート製造発展5カ年計画」を発表し、主要技術、部品、ソフトウェアの自律化を強化、各産業分野でのスマート製造アプリケーションの普及を加速することを主な政策目標としている。

ハイエンド・スマート製造装置の中でも、工作機械は中国が非常に重要視している分野である。 工作機械の用途は、機械、自動車（特に新エネルギー車）、航空宇宙、鉄道車両、半導体、3C製品、5G通信...と多岐にわたる。 これらは、中国がスマートマニュファクチャリングの適用を積極的に推進している主な産業でもある。

中国は世界最大の工作機械消費国かつ世界最大の工作機械生産国であるが、中級・上級の工作機械製品については依然として輸入に大きく依存している。 2011年から2020年中国の工作機械輸入金額は総消費量の30〜40％を占めると予想される。

中国の工作機械の主な輸入先は日本、ドイツ、イタリア、台湾などで、中国は台湾の工作機械の主要輸出国でもある。 2011年から2020年にかけて、台湾の対中工作機械輸出額は14億米ドルのピークに達した。 しかし、台湾の中国向け工作機械輸出金額は、中国の金型輸入金額の10〜12％を占めるに過ぎず、今後まだまだ伸びしろがあると思われる。

中国は世界最大の工作機械生産国で、2011年から2020年の平均生産額は250億米ドル。米中貿易戦争とCOVID-19肺炎流行の影響により2019年と2020年は工作機械の生産が大幅に減少したが、依然として190億米ドル超の規模になった。 近年「Made in China 2025」や「スマート・マニュファクチャリング」政策の支援を受け、中国の工作機械メーカーはミドルハイ層やスマート・ツーリング製品の開発を続けている。

表一、歷年台灣工作機械輸出額(單位:百萬米ドル)

（資料出典：工作機械とパーツ雑誌，2022、NO.141 頁27-28、33，NO.140 頁54-58）

* **最近のニュース**

**台湾ドル29元まで下落　 工作機械工業会「手の打ちようがない」**

【2022-04-11 中央社】

台湾工作機械とパーツ工業同業公会の許文憲会長が本日、次のように述べた。「TWD/USD為替レートは29元まで下落、競合他社の円安が続き原材料やスペアパーツの輸入価格が上昇、原料の在庫不足などにより工作機械の納期が長くなるなど業界にとって不利な状況が続いている。台湾ドル切り下げは業者には手の打ちようがない。」

許文憲は次のように語る。「ロシアのウクライナ侵攻は収まらず、原料価格の高騰が続いている。 また工作機械の主要スペアパーツの納期も不安定で、短納期・長納期の材料事情が解消されていない。世界各国も現地生産を優先しており工作機械の納期は平均6ヶ月延期されるという事態だ。中には、ヨーロッパの顧客向けリードタイムを8〜12カ月に延長しているところもある。」

また、工作機械工業会が本日発表した3月の台湾の工作機械輸出額は、2月に比べて1％の微減、前年同月比では30％増となった。

このうち、3月金属切削工具の輸出額は2月に比べ4％減少したが、金属成形工作機の輸出額は2月に比べ15.6％増加、マシニングセンタの３月輸出額は2月に比べ17.4％減少している。

今年1〜3月の工作機械の輸出額は前年同期比14.6％増、金属切削工作機械の輸出額は前年同期比18.8％増、金属成形工作機械の輸出額は前年同期比3.1％減、マシニングセンタの輸出額は前年同期比24.7％増となった。

**連続19ヶ月黒字　先月機械輸出は過去最高**

【2022-04-12 経済日報】

台湾機械工業同業公会が昨日、今年3月の機械・設備輸出額が前年同月比9.0％増になったと発表した。2020年9月から19カ月連続で増加し、単月の輸出額も過去最高を記録するなど、国際経済における機械・設備への旺盛な需要が続いている。

台湾機械工業同業公会の魏燦文会長は、今年第1シーズンの機械輸出額の上位3位は、金額順に電子機器が14.1％で前年同期比6.6％増、検査・測定機器が12.7％で4.7％増、動力コンポーネントパーツが8.0％で17.0％増だったと解説した。

機械の輸出先トップ3は、米国26.7％、中国大陸25.9％、日本6.1％であった。 注目に値するのは、米国が3ヵ月連続で中国本土を抜いて台湾への最大の機械設備輸出国となったことだ。これは米国経済の機械設備に対する旺盛な需要が回復しつつあることを示している。

主な工作機械業における3月の輸出は2.29億米ドルで4位、前月比0.8％減、前年同期比2.9％増、第1シーズンの累計輸出は前年同期比14.6％増、3月はロシア・ウクライナ戦の影響や世界主要国からの投資がやや鈍ったことなどにより伸びが少なかった。

**TIMTOS 2023 台北国際工作機械展、4月26日より受付開始**

【2022-04-18 経済日報】

外国貿易協会と機械工業会の共催により2023年に開催される台北国際工作機械展（TIMTOS）は、キーコンポーネントからスマートマニュファクチャリングソリューションまで、金属加工の生産システム一式を網羅したリアルとバーチャルの並行で開催される。

外貿協会によれば、TIMTOS 2023は「グリーンエネルギー」、「スマートネットワーク」、「フレキシブルマニュファクチャリング」、「デジタルシミュレーション」など、金属加工の新しいトレンドをリードする分野に強く焦点を当て、メタバースの商機や電気自動車のサプライチェーンなどといった新しいアプリケーションを展示して再登場する予定だ。このほか、オンラインおよびオフラインでのソーシング、ライブ、業界フォーラム、テクノロジーセミナーなどのハイブリッドイベントを掛け合わせた展覧も開催される。

台湾の工作機械産業は2021年も好調で、輸出額は2020年比29.1％増と大幅成長、世界第5位を維持している。

貿易協会は次のように語る。「世界的な二酸化炭素削減の流れを受けて、2023年TIMTOSは低炭素供給変革にフォーカスし、デジタル化と二酸化炭素削減を組み合わせたスマートソリューションを強調、世界の工作機械産業の将来的な動向を提示する。」

**ロ・ウ戦、上海のロックダウンで原料不足、供給の遮断は年末まで続く恐れ**

【2022-04-27 連合報】

ロシア・ウクライナ戦、上海ロックダウンと海上運賃の高騰の結果、工作機械業界は原料不足や供給の遮断に見舞われている。工作機械業界によれば状況は深刻で年末まで続くと考えられる。

台湾工作機械とパーツ工業同業公会の許文憲理事長は次のように語った。「ロシア・ウクライナ戦で原料の価格が上がっている。原料源がロシアやウクライナからでなくても、近隣の国々が価格の上昇を見てさらに値上げする。台湾のロシア向け直接貿易は5％にすぎないが、間接貿易を加えるとより多く、今回の戦争で工作機械産業も影響を受けることになる。」

加えて、台湾の部品の多くは中国大陸で生産されており、今回上海ロックダウンにより部品の供給が途切れ、川上、川中、川下の業界全体に影響を及ぼしている。いまのところ４シーズンの景気は雲行きが悪く、今後の見通しが立たない状況だ。

**米国が台湾の機械輸出先トップに、封鎖で中国は2カ月連続マイナス成長**

【2022-05-10 中央社】

台湾機械工業会が本日次のように語った。「台湾の中国大陸向け機械輸出は2ヶ月連続でマイナス成長、その割合も2桁を超えたため米国が台湾の機械設備輸出第1位となった。中国本土でのコロナ流行を厳しく管理するためには、サプライチェーンの管理と市場運営のリスクに注意を払う必要がある。」

台湾機械工業会の発表によれば、4月の機械輸出額は昨年4月に比べて16.8％増加、単月としては3月に次ぐ過去2番目の高水準となり、2020年9月以降20カ月連続で増加している。

台湾ドル換算で4月の機械輸出額は前年同月比18.1％増となった。 機械工業会によると、これは台湾の機械設備の輸出が引き続き盛んであることを示している。

今年1-4月台湾機械輸出の累積額は、前年同期比15.7％増、新台湾ドル換算では14.8％増となった。

工作機械業界では、4月の工作機械輸出が前年同月比21.9％増、3月比11.35％増となり、今年1-4月工作機械輸出の累計は年16.3％増となった。

同工業会は、台湾の対米・対中輸出を比較し次のように指摘する。「今年1-4月の対米輸出は前年同期比46.7％増で台湾の機械設備輸出の第1位となり、対中輸出は前年同期比7.9％のマイナスで第2位だった。」

**先月の機械輸出は20年連続の黒字**

【2022-05-11 経済日報】

台湾機械工業会が昨日、機械設備の輸出額が今年4月に前年同月比16.8％増、新台湾ドル換算で18.1％増になったと発表した。 これは2020年9月から20カ月連続の増加で、月間輸出額としては史上2番目、我が国の機械輸出が引き続き盛んであることを示している。

台湾機械工業会理事長の魏燦文氏は、ロシア・ウクライナ戦争とコロナが世界経済に影響を与え続けていることを指摘した。特に中国大陸ではコロナ禍が急速に増加していること、規制ゼロを維持する方針の下、各地で規制がかかっており上海が最も深刻だ。

台湾の米国、中国向け輸出を見ると、米国は今年46.7%増で機械設備輸出の第1位となり、大陸は7.9%減で第2位となった。 今年1-4月の機械輸出の上位3位は、金額順に電子機器（14.3％）、検査・測定装置（13％）、工作機械（7.9％）となった。

**2022高雄オートメーション工業展と国際器材化工展(Kaohsiung International Instruments & Chemtech Expo)が商機を引寄せる**

【2022-05-11 経済日報】

経済日報社主催の「2022高雄自動化工業展・高雄国際器材化工展(Kaohsiung International Instruments & Chemtech Expo)」が5月11日から14日まで高雄展覧館の南北両ホールで開催された。今年南台湾の工業展としては最大規模で最も示唆に富む展示会となり、CVRも２、３割に達した。

オートメーション産業部門では、工作機械、スマート機械、産業機械、ハードウェア部品、オートコントローラー、発明・技術移転など6つのゾーンがあり、台湾工作機械の三本柱となるレーザー溶接機やレーザーデスケーリング機の新製品を多数展示するなど、スマートオートメーションの分野にテーマを絞った展示が行われていた。

このほか、カスタマイズカムのブランド德士凸輪 (TE-SHIN CAM)、チューブベンディングマシンで業界をリードする喬陞（Josson Machines）、また産業機械部門のTiansheng Packagingの全自動包装システム、スマート機械部門のZD Technologyの新ミニチュア6軸ロボットアームの展示もある。スマート物流専門企業の福泰益とGWMの無人ハンドリング装置、ハードウェアとコンポーネントの分野で世界的に有名な電子配線機器ブランドである凱士（カイザー）などがあり、品質、技術、サービス、イノベーションの全方面を通じて、企業の生産全体の効率向上とコスト削減を支援している。

**工作機械業を救助　全国の学校向けに国産工作機械を1,707台購入**

【2022-05-16 経済日報】

新型肺炎の影響により、工作機械業界は操業や輸出において大きな試練にさらされている。 行政院は、経済部が約21.44億元かけて全国125校の国産工作機械1707セットとスペアパーツ1349セットの調達を達成するよう支援、工作機械業界の動態を維持するだけでなく、学校がハイエンドモデルを導入し、インテリジェントなソフトウェアアプリケーションを導入できるよう承認した。

経済省と教育省は、産業活性化と人材育成という二つの効果を実現するために、大学や工業高校が新しい設備を取り入れ、質の高い国産金型設備を調達できるよう支援する。

 世界経済は今、サプライチェーンの再編成に直面しており、この大きな変化に対応するため、経済部では業界が安定のもと成長し、変化の中でチャンスをつかむことで台湾が「アジアのハイエンド製造センター」となるように、そして世界のサプライチェーンの中心で台湾の地位を確立できるようスマート製造能力の強化指導を続けていく。

**工具機械にアラート 受注量2割以上減少**

【2022-05-17 経済日報】

台湾工作機械とパーツ協会理事長の許文憲氏によれば鉄鋼、ニッケル、銅などの原材料の国際的な高騰に加え、ロシア・ウクライナ戦の不安もあり、国内の工作機械メーカーの受注は最近２割以上減少しているそうだ。当協会は、今年の工作機械輸出の成長見通しを年率20％から30％に修正し、昨年の水準を維持することを決定した。

許文憲は率直にこう述べている。「ロシア・ウクライナ戦による国際原料価格の高騰、地政学的な不安、中国本土でのコロナ禍によるロックダウンなどで、例えばコントローラーの納期はこれまで3〜6カ月だったのが半年以上に延び、特殊仕様のものはいつ納品できるかもわからない状態になっている。」

しかし許文憲氏は次のようにも指摘している。「4月と5月に国内の工作機械メーカーの受注が20％以上減少し、それが第3、第4シーズンの輸出の数字に反映されるだろう。つまり、下半期の輸出は予想を下回る可能性が高く、通年の輸出も昨年を越えられたら良きする。」

台湾機械工業同業公会理事長の魏燦文氏も率直に、「台湾の機械、工作機械の輸出はこれまで好調だったが、米国の金利上昇の継続、新興国の経済成長の鈍化の可能性、世界的なインフレなどにより今後の輸出に不透明感が増している」と述べた。

**工作機械工業会「他国との貿易協定が米国の貿易進展に及ぼすバタフライ効果」**

【2022-06-02連合報】

行政院は昨日、米国との貿易協力に大きな進展があったことを発表した。台湾工作機械パーツ協会の許文憲会長は「工作機械設備について言えば、輸出額が生産額の70％以上を占めている」と述べた。当協会は「台米21世紀貿易イニシアティブ」の内容に「貿易円滑化」、「デジタル貿易」、「標準化」など11の交渉事項が盛り込まれたことを前向きに捉えている。 特に「貿易円滑化」と「デジタル貿易」は、産業界が製品の関税における障壁を取り除き、通関効率を高めることで海外との商取引に必要な通関費用を削減し、商品の迅速な市場参入を促すことにつながる。

また彼は、「工作機械工業会は双方の交渉を通じて、公平な競争の場を提供できること、このイニシアティブを通じて台米産業が相互の経済貿易関係を深化し共通の価値を促進、共通の課題と機会に対処できることをサポートすると同時に期待している」と述べた。

許文憲氏は次のようにも言っている。「台米21世紀貿易イニシアティブは工作機械業界にとって、産業が米国市場でプレゼンスを拡大するための大きな後押しとなる。また、台湾が他国との貿易協力協定にさらなるバタフライ効果をもたらし、台湾の国際外交に新たな高みをもたらすことを願っている」。

**5月の機械輸出は1.1％減、20カ月ぶりに減少**

【2022-06-09 中央社】

台湾機械工業会は本日、5月の台湾機械設備輸出入に関する速報を発表した。 5月の機械輸出額は28.8億米ドルで前年同月比1.1％減、20カ月連続で前年を上回った後初めて減少した（台湾ドル換算では前年同月比4.4％増）。

同工業会は、前年同期の基準期間の高さ、ロシア・ウクライナ戦による高インフレや保守的な世界経済情勢などから、企業の機械設備投資への積極性が以前より低下していると指摘した。

工作機械産業においては、5月の工作機械輸出額は前年同月比1.4％増、4月比では2.75％減。 今年1-5月の機械輸出額は累計で前年同期比12％増、新台湾ドル換算で12.5％増となった。

輸出市場について機械工業会は次のように発表した。「5月の中国大陸向け機械設備輸出は17.9％のマイナス成長を続けている。今年1-5月の中国大陸向け輸出の累積成長率は-10.2％となった。年初4ヵ月間の対米輸出は前年同期比46.7％増となり、かつて米国は輸出市場第1位であったが、5月の対米輸出は前年同月比12％増にとどまり、５割にも伸びなかった。累計では中国本土向け輸出が1位にもどり、米国向け輸出は2位となった。」

**機械設備輸出連続20ヶ月の黒字に終止符**

【2022-06-10 経済日報】

台湾工作機械とパーツ工業会は昨日、今年５月の機械設備輸出額は前月比4.5％、前年同月比1.1％減少したことを発表した。これは20ヵ月連続の増加後初の減少で、中国本土向け輸出は3ヵ月連続の2桁減となり、業界ではすでに下半期への懸念が隠しきれない。

台湾工作機械とパーツ工業会理事長の許文憲氏によれば、鉄鋼、ニッケル、銅などの国際原料の高騰とロシア・ウクライナ戦が重なり、国内工作機械メーカーの受注が20％以上大幅減になっていることを警告した。

機械工業会は１-５月の機械輸出額トップ３は種別に電子機器14.2％シェア（前年同期比5.5％増）、計測機器13％シェア（同6.3％増）、工作機械8.1％シェア（同12.8％増）となったことを発表した。

１-５月機械輸出国トップ３は大陸が26.5％、米国25.9％、日本が6％占めた。工作機械においては、５月輸出が第３位に並び、年比1.4％増、月比2.7％減少した。

**機械業界は為替レートに注目、緩やかかつ適切な切り下げを**

【2022-06-25 中央社】

世界的なインフレと金利上昇の圧力が高まる中、輸出向けの機械、工作機械業界は対米新台湾ドルの動きに大きな関心を寄せている。

5 月の米国消費者物価指数は前年同月比 8.6％上昇、4月の年平均成長率の8.3%より高くなった。予想を上回る上昇率で、インフレが頭打ちになるとの市場の予想を裏切り、米国連邦準備理事会が利上げ加速のためにより積極的な措置を講じた。

台湾機械工業同業公会理事長の魏燦文氏は次のように語った。「機械製造産業から言えば、新台湾ドルの下落は製品輸出に有利である。為替レートは、国の政策、異業種の国内・輸出売上高、半導体産業の輸出高なども関係している。為替レートが安定すれば、業界にとって受注リスクは軽減されるだろう。」

台湾工作機械とパーツ工業同業公会理事長の許文憲氏は、「新台湾ドルが短期間で大きく変動した場合、メーカーの製品見積り、顧客との交渉および支払手続きに大きな圧力がかかる。工作機械メーカーにとって為替レートの安定は、効果的な為替リスク管理のために不可欠だ。」と述べる。

さらに「最近の韓国や日本の通貨安に伴い、新台湾ドルの為替レートは業界の輸出競争力を左右する要因の一つとなっている」と語ったが、為替レートよりも現在国内の深刻な人手不足の方がはるかに大きな影響を与えていると彼は考えている。

**上銀、全球傳動が27日に今後の展望を発表**

【2022-06-26 経済日報】

20ヶ月連続で増加した台湾の機械設備輸出は、5月には初めて1.1%減少した。中国本土向け輸出は3ヶ月連続で2桁の減少を示し、業界ではすでに下半期への懸念が見え隠れしている。

台湾機械工業同業公会理事長の魏燦文氏は次のように語った。「5月の輸出は冷え込んだ。前年同月が基準期間よる高かったことに加え、ロシア・ウクライナ戦による高インフレ、世界経済の保守化などにより、企業の機械設備投資意欲は以前より減退し、先行きは好ましくない。このほか、大陸のコロナによる閉鎖がメーカーの出荷にも影響を及ぼしている。」

これに先立ち、台湾工作機械パーツ協会会長の許文憲氏は、鉄鋼、ニッケル、銅などの国際原料の高騰と、ロシア・ウクライナ戦の不安から、最近国内の工作機械メーカーの受注が20％以上の大幅減少に向かっていると警告している。同協会は今年の工作機械輸出の見通しを、年率20％～30％に修正し、昨年の水準を維持することを決定した。